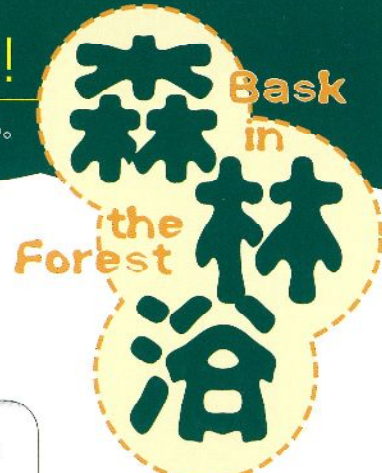


おおらかな自然に抱かれて、さあ元気に歩こう!

【癒しの道・南飛驒森林浴回廊 21】 自然の不思議や、めずらしい生き物にきっと出会える。



11

# 伝説の宝庫

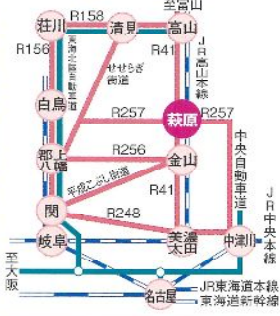
## 「仏ヶ尾山」を探るみち



仏ヶ尾山は、国道41号よりよく見える山で、JR高山本線上呂駅から直接登山口まで徒歩20分程度で行ける。頂上からは、御嶽から槍ヶ岳までの大パノラマが広がる。



■■■■ → コース  
 初心者向きコース  
 標高 1139m  
 上呂駅より 山頂まで 3km  
 所要時間 山頂まで2時間



### そのがたり

#### ほとけ山の由来

山麓の野上の獵師彦七がある時、獲物を追って黒谷から山の尾に出た。ふと前方を見ると、明い山の頂きの岩上に山鳥が止まっている。狙いを定めて放った弾は、確かに手ごたえがあった。近寄ってみると、山鳥だと思っただ獲物は阿弥陀如来像であった。彦七は、この如来像を大切にしておいた。以来、おぶ石と云うとなく、おぶ石の由来が伝わっている。

#### 雨乞の折り

尾根つたりの八合目あたりに「穴岩」と呼ぶ十メートル四方もあるでかい岩がある。岩の下の方にはえくくたような大きな洞穴があり、その穴の中の暗闇には恐ろしい山姥が住んでいてと言われている。その山姥を怒らせると大雨が降るといって、生木を切っては火を燃やし、煙を穴の中へ入れて雨乞いをしたと伝わっている。

#### おぶ石

ある秋の夕暮れのこと、若い母親が親の在所の稲刈りを手伝って、嫁入り先へと赤子を背負って帰りを急いでいた。その途中「おんぶしよう。だうこしよう」と何度も呼ぶ声が聞こえてきた。母親は疲れ切っている上に、誘うようなその声についひかれて、大石の上に背中を赤子をおろし、休みました。ほとしたとたん、大石にのせた赤子の姿が石にすいこまれたように見えなくなりました。いまも、この大石の前を通る人は走って通り過ぎるという。

**■コースの特徴** 標柱があり登山道がわかりやすい。前半、急な直登になるが比較的登りやすい。山頂はお目当ての山々が見えるように切り開かれて、素晴らしい眺望。

**アクセス**  
 ■R41→JR高山本線 上呂駅または登山口付近  
 ■JR高山本線 上呂駅

